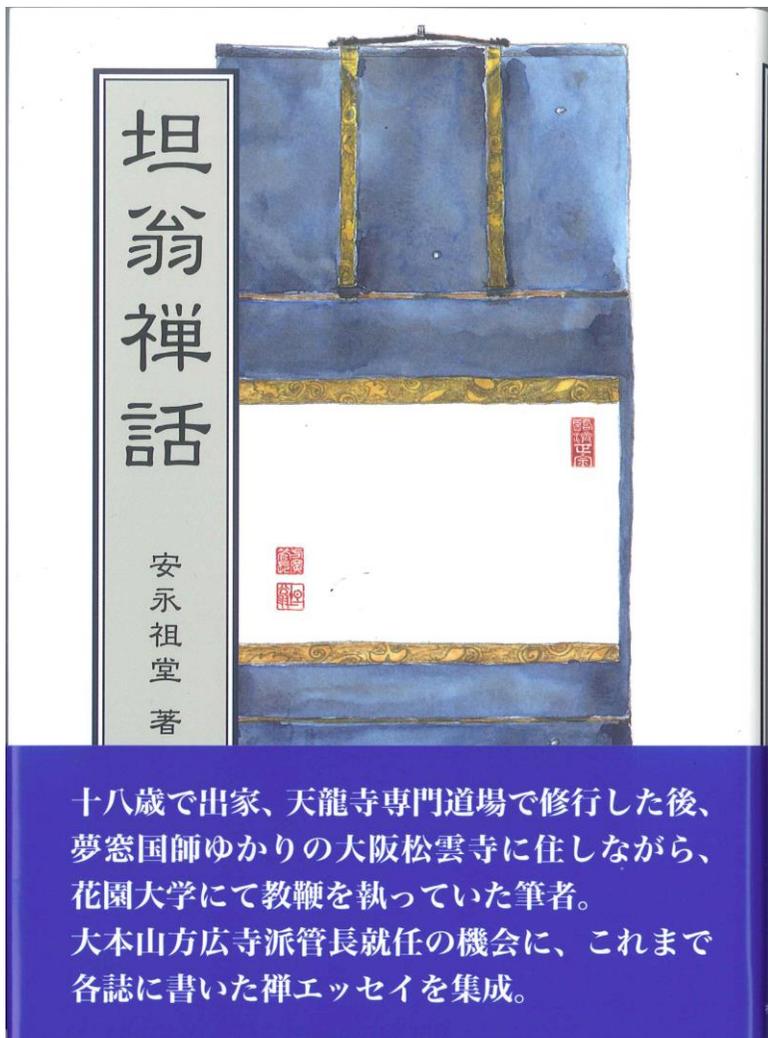




『<sup>い</sup><sup>ぐ</sup>えり喰いはせぬ <sup>ぜん</sup><sup>ぶ</sup>全部頂く』

この世は思い通りにならぬもの。「アテとフンドシは向こうからはずれる」とも言います。暑い/寒い、健康/病気、失敗/成功…などなど、思い通りにならぬ世を思い通りにしようとするから無理があります。そもそも私たちは生まれた時から何一つ自分では選んでいません。性別も、親も、時代も、国も、顔かたちから性格に至るまで、何一つ選べてはいません。最初っから思い通りになんてなっていないのです。最初っから理不尽な世界にポーンと産み落とされたわけですから、そこをあきらめねばなりません。あきらめるとは諦めるというより、この道理を明らかにした上で道理に従って生きるということです。こちらの都合やどうでもよい好き嫌いで選り好みするのはなく、与えられたことを精一杯努めることこそ順風も逆風も自在に操る心得なのではないでしょうか。私たちの人生に供されるのは辛酸甘苦のありがたいメニューです。そしてシェフは仏さまや神さまです。ぜ〜んぶ頂戴しなくてはもったいないではありませんか。



# 坦翁禅話

安永祖堂 著

十八歳で出家、天龍寺専門道場で修行した後、夢窓国師ゆかりの大阪松雲寺に住しながら、花園大学にて教鞭を執っていた筆者。大本山方広寺派管長就任の機会に、これまで各誌に書いた禅エッセイを集成。

## 坦翁禅話 (たんのうぜんな)

発行：禅文化研究所

B6判／上製／297ページ

定価：本体 1,800円 (税別)

平成31年3月2日発売

## 『おすすめします！この一冊』

方広寺派管長 安永祖堂老師：著

### 《爽快な禅エッセイ》

十八歳で出家。天龍寺専門道場で修行した後、夢窓国師ゆかりの大阪松雲寺に住しながら、花園大学にて教鞭を執っていた著者。大本山方広寺派管長就任の機会に、これまで季刊『禅文化』・大徳寺発行『紫野』・『京都新聞』などに連載された、禅エッセイを集成。

### 《著者略歴》

1956年、愛媛県に生まれる。花園大学卒業後、京都天龍寺平田精耕老師に就いて入室参禅。花園大学教授、天龍寺国際禅堂師家を歴任ののち、平成30年より大本山方広寺派管長。著書に『禅ぜん ZEN』(禅文化研究所)、『私が生きて掴んで実践したもの』(宗教心理出版刊)、『禅語録傍訳全書碧巖録 上・下』、『訳注興禅護国論』(ともに四季社刊)など。

### 《集録内容》

禅の色／間／ジャガイモと干し椎茸／仏様のおかげ／カス妄想かわく／坐禅のススメ／宗学のパラドックス／珊瑚枕上両行涙／灰袋／下男昇天の松／禅のひびき／仏に醒める、神に酔う／豆腐と無我／こんにやく問答を味わう／雷鳥と漱石／切腹／猫によせて／日本人の微笑／沢庵禅師が言いたかったこと／愛のかたち／妖怪サトリ／麻薬と劇薬／不実の美女／食人鬼と青頭巾／哀愁のアムステルダム／不干斎巴鼻庵／歯形の地藏／曹源池／朝靄から洩れてくる虫の音のように／孤独地獄／南無阿弥陀仏／こんな夢を見た／山寺の和尚さん／手術台のモーツァルト／書きつけ仏法、火の用心／虎にゃあにゃあ／あとがき

お求めは…

■禅文化研究所…<http://www.zenbunka.or.jp/>

■大本山方広寺…売店にて販売中